

暗闇を抜けた先に

蕪崎市立蕪崎東中学校三年 一木 麻那

人権とはなんだろう。いじめってどこからだろう。普通って誰が決めたんだろう。

小学生のときから私の一人称は「僕」でした。深く考えずただその一人称が一番しっくりくる気がしてずっと自分のことをそう呼んでいました。小学5年生になったとき、友達からなぜ一人称が『僕』なのか聞かれました。特に理由はなかったので答えられずにいると、それって『普通』じゃないよと言われました。確かに周りの女の子達は自分のことを『僕』とは呼んでいなかったけれど、それが『普通』なのだろうか、その子が言う『普通』に合わせるべきなのかと考えました。次の日教室に入ると中にいた子が全員私を見て何かを話し始めました。最初はあまり気にしていませんでしたが、休み時間に仲の良い友達に話しかけるとその子は返事をしてくれませんでした。聞こえなかったのかと思っていきましたが、他の子も必要以上にしゃべってくれなかったことから避けられていることに初めて気がつきました。なんで自分は何もしていないのに無視されなければならないのだと悲しくなり、みんながいないところで仲の良かった子に理由を聞きました。するとその子は「あの子は『普通』の子じゃないからあなたも話しちゃだめだってみんなが言うてるんだよ。一緒に居たいけど私も無視されるのは嫌なんだもん。」と言いました。悲しくてとても辛くて、声も出ませんでした。その日から私は夜に眠ることができなくなってしまいました。またみんなに無視される日が来る、明日なんて来てほしくないと思うのが原因なのか、疲れているし眠気もあるのに眠れなくなってしまったんです。

そんな日々が続き、私はそのまま中学生になっていました。新しいクラスでは明るく活発で優しい人が多かったために、すぐ新しい友達もできて小学生のとき私を無視していた子達もちゃんと話をしてくれるようになり、辛かった日々は少しずつ忘れていきました。ですが中学二年生になったとき、仲の良かった友達とクラスが離れてしまいました。知らない人ばかりの教室を見て、また小学生のときのように無視されたり悪口を言われたりするのではないかと不安になりました。そう思ったら一気に学校が楽しくなくなり行きたくなくなっ

てしまいました。また、そんなストレスからか体調を崩しやすくなり早退や欠席をすることが増えていきました。気持ちに余裕がなくなってしまい、両親に八つ当たりをすることなどもありました。行かなくてはならないと頭では分かっているけど、頭やお腹が痛くて吐きそうで涙が出てきて行くことができませんでした。学校にほとんど行かないままとうとう3学期になったとき、友達が一人家で遊ばないかと誘ってくれて遊ぶことになりました。一緒にゲームをしたり、最近あった面白いことの話をしたりして楽しい時間を過ごした後、その子は私になぜ学校に来ないのかと聞きました。小学生のときいじめのようなものをされていたこと、クラスに仲の良い友達が少ないことなど今までのことを全て話しました。話を聞き終わるとその子は「無理に来ようとする必要はないよ。ゆっくり自分のペースでまた来れるようになればそれでいい。辛いことがあったなら我慢せず全部吐き出しちゃえばいいんだよ。」と言いました。私はそれまで学校は行かなくてはならないもので、人に悩みを話すのはよくないことだと思っていました。無理をする必要はない、辛いことは吐き出しちゃえというその言葉はまるで暗闇に一人迷う私を救う光のように温かく優しいものでした。

『普通』とはなにか、私は今までその答えを探し続けていました。悩みに悩んで考えた結果、私が出した結論は『普通は自分で決めるもので誰か他の人が決めるものではない』です。最近世界では人種差別などが問題となっていますが、本当にくだらないことだと私は思います。肌の色が白い人黒い人、男か女か、きっとどれも普通だけど普通じゃないんです。そのようなことが原因で辛い思いをしている人が、世界には数えきれない程たくさんいるんだと思います。私には私を大切にしてくれる優しい友達がいたから三年生になった今、楽しく学校に通えています。私の友達のように誰かを思い優しく接する人が増えたのなら差別やいじめはなくなるのではないのでしょうか。私はその子に優しくされた分、誰かに優しくできるような人間になりたいです。優しさに触れたならそれを他の人にも伝えてほしい、そう思います。それが出来るようになったとき初めて、輝く光を見ることができるようでしょう。